

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472201027	事業の開始年月日	平成13年12月1日	
		指定年月日	平成13年12月1日	
法人名	㈱あおいけあ			
事業所名	グループホーム結			
所在地	(251-0813)			
	神奈川県藤沢市亀井野4-12-93			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	7名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成28年12月19日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月20日	

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?0pen>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の利用者の希望する事「何々したい」という気持ちを大切にしている どの
 ように したら実現実施できるかをスタッフ全員で考え ケアプランにも 立案し
 実施している 28年度 夏はお孫さんの高校野球の試合の応援に野球場へ出かけた利用
 者 秋は数十年ぶりの秋田への里帰りを一泊旅行でスタッフと行った利用者 やはり
 十何年ぶりになじみだった湯河原の温泉旅館に一泊スタッフと出かけた利用者がい
 る ホームを終の棲家とし
 て暮らしていただき希望があれば 本人 家族 主治医と相談連携を持ちながら無理
 な延命治療をせず 家族 スタッフに見守られながらの 看取りをしている

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成29年1月27日	評価機関 評価決定日	平成29年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、小田急江ノ島線「六会日大前駅」から徒歩7～8分の利便性の良い場所
 にあります。設置法人は株式会社で、同敷地内にサテライト事業所、小規模多機能
 型事業所があり、日常的に交流し連携しています。今春には、さらにレストラン、
 サテライト事業所、アパートの複合施設の開設を予定しています。

<優れている点>

「その人らしく生き活き」という主旨の設置法人の理念と事業所運営方針(ケア
 の考え方の芯)を念頭に置いた支援を心掛けています。利用者との関わりや会話な
 どでコミュニケーションを十分に図り、信頼関係の中から得た利用者の思いや意向
 をケアプランに具体的に反映し、実践に取り組んでいます。利用者の遠方の故郷へ
 の1泊2日の里帰り、馴染みの温泉旅館への小旅行、孫が頑張っている野球の応援
 に球場まで行くなど、計画について話し合い、検討を必要とする事例から、日常的
 な散歩や買い物に至るまで、利用者が「楽しさをあきらめない、本当の笑顔が見ら
 れる」よう、常に利用者が必要としていることを汲み取り、支援しています。

<工夫点>

利用者・家族の意向を聞き、話し合い、その利用者(家族)のみの約束事項を作
 成、実行することで、長年一緒に暮らしてきたペットとの同居を続けることができ
 たなど、柔軟に対応する体制を整えています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム結
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	認知症でも困らない様に寄り添えば素敵なお年寄り、よりよい人間関係の構築で自立支援と地域作りに繋げ未来の世代に残せるケア文化をつくるという理念を共有し職員全員で話し合いながらケアプランに反映実施している	職員は、「その人らしく生き活きと」という主旨の設置法人の理念と事業所の運営方針（ケアの考え方の芯）を常に念頭に置いた支援を心がけています。「50年後の世代に残せるCARE文化をつくる」ため、日々実践しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	あおいけあの年中行事イベントの草団子、流しそうめん、餅つきの会は地域イベントとして定着しつつあり利用者は 役割を持って参加し人々と交流している地域の公園体操や 地元商店利用で出かけることで人々と交流する機会も多くもっている	設置法人として行っている年3回の行事イベントは、毎回数百名の参加があり、地域のイベントとして定着し、ますます活況を呈しています。それ以外にも公園の花壇整備のボランティアなど利用者はそれぞれ役割を持って地域の人々と付き合っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人代表が認知症サポーター養成講座開設や あおいけあ実践事例の講演を積極的に行い スタッフによる事例発表も定例一般公開で市民ホール等で行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議兼勉強会開催は継続して行われておりスタッフによる事例発表を行いご家族や地域の人々との意見交換を行いサービス向上に活かしている	運営推進会議兼勉強会は法人全体の取り組みとして、利用者、家族、自治会長、民生委員、関係機関の参加を得ています。職員による事例発表や参加者との意見交換、アンケートを通して、さらなるサービス向上につなげています。	事業所単独の運営推進会議の開催について、引き続き検討が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員派遣事業や傾聴ボランティア養成講座の実習生の受け入れを行っている	運営推進会議兼勉強会には市の介護保険課の職員の参加があり、法人全体の運営やサービス向上の取り組み状況について報告をしています。また、市の事業である、介護相談員訪問や傾聴ボランティア養成講座の実習生を積極的に受け入れています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的なマニュアル検討を行い 会議にて確認しスタッフ間で周知している	「身体拘束はしない」という意思統一の下に支援をしています。玄関やリビングの掃き出し窓の施錠はありません。自立度の高い利用者は、エレベーターを使い、1階のリビングと2階の居室を自分の意思やペースで自由に行き来しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議においてマニュアルの確認 検討を行いスタッフ間でも周知を徹底している 言葉や環境設定に関してはスタッフ間での話し合いを会議で行うことで防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人とケアマネージャーがはあくしており 法人がキャラバンメイトとして対外的に周知活動を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必要に応じて書面での説明及び個々の家族に対して管理者より説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議 ケース会議 往診立ち会い時 日々の面会時等で意見や要望を聞く機会を設けている	面会、運営推進会議兼勉強会、ケース会議、往診時の立会いなど、家族から意見や要望を聞く機会を設けています。ペットとの同居の要望については、その利用者（家族）のみの約束事項を作成し、対応をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回のスタッフ会議でレク会議 ケース会議 必要項目を議題とした会 議を開きスタッフ同士の意見交換を 行っている	毎月、基本全職員参加のスタッフ会議 の中でレクリエーション・ケース検討 など議題に上げて話し合っています。 利用者の遠方の故郷への里帰りを成功 させるために、旅費の捻出方法、職員 の付き添い方など意見やアイデアを 出し合っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりが いなど、各自が向上心を持って働けるよう職場 環境・条件の整備に努めている。	管理者は個々の職員の努力や実績の情 報を代表者へ報告し また直接話す機 会をつくり環境や条件の整備に努めて いる		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていく ことを進めている。	個々の職員の能力に応じた研修参加を 促しており職員からも研修参加希望が ある時は支援している 又あおいけあ 内の他事業所小規模多機能への交換研 修も月1回行う事を継続実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相 互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上 させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会を中心に他施設 との交流を行っている イベントや勉 強会への参加 招待を行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っ ていること、不安なこと、要望等に耳を傾けな がら、本人の安心を確保するための関係づくりに 努めている。	利用開始前 開始後のアセスメントで ご本人やご家族から話を十分聞き 納得いくプランを提示しながら 馴染 みの関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の要望や話を十分聞き必要な支援方法を反映し納得出来るケアプランを作成している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人 家族の要望を十分にアセスメントし「出来ること出来ない事シート」を作成し 24時間経過観察記録をつけ最も本人に必要で 出来ることで家族も納得できるケアプランを作成している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員と利用者は 同じ平面で同じ方向に向かい 意見を交換し 助け合いながら暮らしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とは情報交換を常に行いながら家族の意向を大切にしながら共に本人を支える一員であることを伝えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族や友人等に訪ねてきて頂く時間に制限は無く来て頂いています 入居前の生活での馴染みの場所を訪ねたり利用したりすることをケアプランに組み込み家族の協力も仰ぎ支援実施している	馴染みの場所（美容院、地元商店での買い物）や人（家族や友人）との関係継続のためにケアプランに組み込んで支援をしています。自治会活動で定期的に行っていた温泉旅行には職員が同行し、馴染みの旅館の従業員と旧交を温めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日中一人で居室に閉じこもり過ごす利用者はおらず全員がリビングで毎日過ごすことがほとんどです。座席や居場所をスタッフが配慮しながら会話をとり持ったり作業を一緒に行ったり一緒に出かけたりしながら支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族の労いイベントへ招待したりイベントでのボランティアをお願いしたり または希望して頂いたりとの交流は継続していただいています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの経歴や言葉から真意を汲み取るようしている	職員との関わりや会話などコミュニケーションを十分に図り、信頼関係の中から得た「鎌倉に行きたい」「カラオケに行きたい」「洋服が買いたい」といった利用者の思いや意向は、目的を持った外出としてケアプランに具体的に反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族から話を聞いたり 暮らし方シート 家族シート 療養シート等を作成活用している 本人の話聞く事に十分時間をもち把握につとめている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来ること出来ない事シート 一日の過ごし方シートを作成活用し把握に努めている 体調や変化はケース会議時に検討したり医師への相談を医療ネットワークを活用し意見を仰いだりしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	事前に家族要望を聞いたり 本人の日頃からの言葉や要望を集め 全員参加のケース会議で本人が希望に添い具体的な内容を盛り込んだケアプランを作成している	ケアプランは本人・家族から意向を聞き、個々の目標ゴールを定め、それに近づくための短期の具体的な支援方法について、医師や理学療法士など専門家からのアドバイスを取り入れています。現状に則したものとなるよう毎月のケース会議で話し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は個別で行っている 個別担当者によるモニタリングを行い記録し常にスタッフ全員が確認しながら 日々実践しておりケース会議で話し合ったりしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	併設の小規模多機能のイベントに参加し合ったり訪問し合ったり出来る環境は変わらずある		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括センター主催の公園体操参加や その公園の花壇整備参加は継続して行っている 整髪は地元美容院を利用したり イベントでは周辺のお店が出店してくれたりボランティア参加してくれたりしている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ホーム協力医は24時間体制でホームでの看取りにも対応して頂いている 必要に応じて往診に家族にも立ち会って頂き医師からの情報を共有している	事業所の協力医の月2回の往診のほか、通院は家族の協力を得ています。近隣の馴染みの歯医者には職員が付き添っています。医療情報は、往診時に家族の立ち合いをお願いしたり、個人ファイルに記録し、共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	個人カルテを作成し 医師 看護師に日々の情報を提供している また医療ネットワークを利用し変化を報告し適切な支援が受けれる様行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今までの状況 入院に至った経緯等の経過報告を医療機関に提出している 退院時にはサマリー 必要に応じてカンファレンス出席もしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	運営規定「グループホーム結における重度化した場合に関する指針」をもって本人 家族の希望を十分に考慮しながら話し合いを行い文書に残し さらに確認をその都度行いながら 希望による看取り介護を行っている	入居時に重度化した場合における対応指針を説明し同意を得ています。本人や家族の希望を確認しながら看取り介護を行っています。これまでの事例を振り返り、「支援させていただくことの有難さ」をチーム支援に反映するよう努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルの検討 研修 訓練等を取り入れながら緊急時に備えている スタッフは順次 救急救命講習を受講している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼間・夜間のマニュアルを作成し定期的に避難訓練を実施している	避難訓練は夜間想定も含め年2回法人全体で実施しています。その際は、新人や経験の浅い職員が参加できるようにしています。災害時には敷地内に居住する代表や近隣に住む職員が駆けつける体制があります。備蓄品は法人が管理しています。	定期的な避難訓練に地域の人々や消防団の協力を得ることの検討継続が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	長く生きてこられた経験や 培われた個々の人格に敬意を持って接する様 スタッフ全員が話し方 接し方を意識して対応している	職員は理念と事業所の運営方針の「ケアの考え方の芯」を心に置いています。フランス発祥の認知症ケア「ユマニチュード」の勉強会には全職員が参加しています。新人職員には教育担当職員が接遇の指導に当たっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を聞き 希望にそった最善の方法等を共に模索し より良い決定が出来る様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホームでの過ごし方は個別に本人のペースで行われる事になっており スタッフの都合で生活のペースが変わることはない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	今までの生活と変わらない生活用品の持ち込みを家族にお願いしたり 生活スタイルを如何に変えずに過ごして頂くかを支援の基本にしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備作業を個々の能力にあった方法でもらい役割の達成感のある食事作りを皆で行っている 体調等に配慮する時はメニューにこだわらず 個別に好みで食べやすい食事を提供することは常時行っている	利用者と食材を買い出しに行ったり、近隣の人からもらった食材で職員と一緒に調理するなど、作業と食事を兼ねた楽しみ方をしています。年間のイベントでは地域の人々と芋煮やそうめん流しなどでその季節ならではの食べ物を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の好みを把握し体調や状況にあった方法で提供している 必要に応じて食事 水分摂取量のチェック表を使用したり刻み食ミキサー食を好みの食品で対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	基本的には自ら行えるよう声かけ等で支援している 個々の身体的機能を把握し必要な口腔ケアは歯科医師の指導を仰いだりしながら用具等を使用している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンや状況を把握してトイレでの排泄ができるよう支援している いかにかに布パンツで過ごせるかをケース会議で検討しオムツや紙パンツをなるべく使用しなくても良い様支援している	日中はもちろん、夜間でも丁寧なトイレ誘導やポータブルトイレ使用など一人ひとりに合わせた対応をしています。利用者の排泄の改善につながることはまず試す、という職員の積極的な支援で、改善した事例は多くあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事で食物繊維やオリゴ糖の摂取等で自然に排泄出来る様に支援している 主治医と相談して本人にあった便秘予防 改善に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	お風呂は毎日沸かしており希望があればいつでも入る事ができる 基本的には一日置き位で皆さん入浴している 個々の希望の時間や体調に配慮して入浴してもらっている 季節で 柚子湯やしょうぶ湯等で楽しく入ってもらえるよう行っている	毎日沸かし、利用者の希望に対応できるよう夜間の20時まで入浴は可能としています。入浴を拒む利用者には職員と一緒に入る事もあります。近所の銭湯に行くこともあり、入浴を利用者との信頼関係を築く大切な時間としています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中での休息臥床は本人の希望や状態でいつでも居室で休息臥床していただけるようにしている 夜間 夜勤者は居室の温度管理や心身の状態に気を付けながら相談に乗ったり話し相手になったりしながら安心して眠れる様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬リストで個々の毎日の薬を準備しスタッフのダブルチェックを行っている 月に2回の定期検診での処方薬の目的 用法 副作用を確認し医師と相談しながら症状をみている 定期健診立ち会い薬の確認は全スタッフが周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の会話の中や生活歴から情報を集め個々の得意だったり好む事柄の作業活動 外出を年間を通し行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々の食料品の買い出しや嗜好品の買い物 散歩 畑仕事 外食美容院等々 本人の希望や好む場所への外出を家族とも協力して行っている	一人ひとりの習慣や楽しみ方に合わせて日常的に外出しています。また、利用者一人ひとりのこれまでの生活を振り返り、何処へ行きたいかを全職員で考え、計画し、実行に移しています。夏に孫の野球観戦に出掛けた利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いを預からして頂いている 本人の希望を家族と相談しながら日常的に使えるようしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	個々の希望に応じて家族や友人に電話をかけることを支援している 暑中見舞いや年賀状の季節の挨拶等のやりとりを行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的に専門に掃除をしてくれる人が入ってくれ利用者やスタッフも一緒に掃除を行っている また季節に合わせた飾り付けを楽しく一緒に行っている	リビング兼食堂の場合は、食卓に居ても、コーナーのソファに居ても、利用者の動きや声を感じられる広さ、配置になっています。行事で利用者が楽しんでいる様子の写真をスナップ編集し、玄関やリビングに展示しています。折り紙の作品や手作りの小物なども飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	必要に応じて模様替えをしている テーブルや椅子の配置換えをしたりミニテーブルやソファを活用したりしている 座席や過ごす場所を指定したり取り決めたりすることは無く自由に過ごして頂いている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用していた家財道具を持ちこんで頂いたり 写真 絵画等 個々の好むものを飾ったりして 個性を生かした空間づくりをして頂いています	利用者は居室に馴染みの物を持ち込んでおり、ベッド、整理ダンス、鏡台、テレビ、加湿器、仏壇や家族の写真を置くなど、思い思いに過ごしています。中には規則のもとに、長年一緒に暮らしてきた犬と同居している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	目の見えにくい利用者には床に白い点線をつけトイレに一人で行けるようにしている 1～2階のエレベーターは使用出来る利用者には一人で自由に使用して頂いている等 個々の能力を把握しながら出来るだけ一人で行動できる様支援している		

平成28年度

目標達成計画

事業所名 (株)あおいけあ グループホーム結

作成日： 平成29年 4月15日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	自己評価 3.5 外部評価 1.3	避難訓練を年二回行っているが施設での火災を想定しスタッフで行っているだけで地域の人との訓練には至っていない	地域の人へ参加を呼びかけ参加して頂き災害時の為に地域との連携を深める	年二回の避難訓練を地域に回覧板等で告知し参加して頂き避難訓練だけでなく炊き出しも行い参加者と食し災害時の連帯を深める 第一回目を4月末～5月に 実施準備始めている	10ヶ月
2	自己評価 4 外部評価 3	あおいけあの運営推進会議でグループホームとして事例発表等 力を入れて行っているが単独での運営推進会議まで手が回らないのが現状	無理のなく継続実施出来るような運営推進会議の場を設けていく	あおいけあでの年中行事やイベント時に運営推進会議の場を設けることが出来ないか検討している *大きなイベントは年に4回ぐらいは実施している	9ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月